

徳之島事務所（令和８年７月分）管内情勢

農林水産業関連

１ 「奄美農業を語る会」が開催

７月１６日（木）、徳之島において、県農業経営者クラブ徳之島支部等の主催による「奄美農業を語る会」が開催された。地域農業をけん引する農業経営者クラブ員をはじめ、県農政部長や農政関係者、島内の関係団体代表など約５０人が参加した。

現地検討会では、伊仙町で行われているバレイショ後作（落花生）の取組や、徳之島町の大規模肉用牛経営の取組について視察し、意見交換を行った。

室内検討会では、天城町の生産者から「エコハカマ回収利用の取組」について事例発表が行われ、パネルディスカッションでは、「資材高騰等への対応について」をテーマに、パネラーから各取組の紹介が行われたほか、会場からも生産者独自の資材コスト低減への工夫や物流コストの課題などについて活発な意見交換が行われた。





2 「エコハカマ回収利用の取り組み」を検討

7月16日の「奄美農業を語る会」及び7月17日の農業経営者クラブさとうきび部門研修会において、「エコハカマ回収利用の取組」について検討を行った。

肉用牛とサトウキビの複合経営を行う生産者から、ハーベスター収穫時に排出されるサトウキビの梢頭部やハカマを、自給粗飼料や牛舎の敷料として有効活用している事例が紹介された。また、堆肥の還元による土づくりとあわせて、地域内で資源を循環させる「耕畜連携」の重要性が示され、地域でのハカマ利用の積極的なPRや「耕畜連携」を継続的に推進するための仕組みづくりについて意見交換を行った。

3 令和8年産「しまあかり」実証実績検討会及び意見交換会を開催

7月9日及び10日に、令和8年産「しまあかり」実証実績検討会及び意見交換会を開催し、生産者20人及び関係者17人の計37人が参加した。

農業普及課からは、「しまあかり」の収量が「ニシュタカ」と同等

以上であることや、適正な収穫タイミングについて説明を行った。また、ＪＡからは、種子の供給実績・計画等が説明された。

参加した生産者からは、腐敗の発生が多いことや培土の方法について意見が出され、その対策等について意見交換が行われた。

さらに、農業開発総合センター徳之島支場からは、自家種子の栽培管理方法についての説明があり、本品種のさらなる普及に向け、有意義な会となった。

４ 農業経営の土台を学ぶ「農業基礎講座」を開講

７月２２日に、新規就農者や就農予定者、青年農業者を対象とした「農業基礎講座」を開講した。講座は、全５回で、徳之島の農業の概要をはじめ、農業経営の考え方や決算書の読み方、土壌肥料・病害虫の基礎、農作業安全、認定制度と資金制度の概要など技術面・経営面の両面から農業経営の土台を学ぶカリキュラムとなっている。初回は就農予定者を中心に２３人が出席した。講座を通して、経営安定・経営発展に向け何をすべきなのか、農業者自身が考える機会とした。

